

Anan College			専攻科共通（平成30年度以前入学生）				Year		2016						
Department Goals															
Course Category		Course Title	Course Code	Credit Type	Credits	Class Hours per Week								Instructor	Division in Learning
						Adv. 1st Y				Adv. 2nd Y					
						1st		2nd		1st		2nd			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
General	Compulsory	工業英語	0001		2	2								Fujii Hiromi	
General	Compulsory	英語講読	0002		2	2									
General	Compulsory	国際協力論	0003		2	2								Imada Hiroyuki	
General	Compulsory	技術者倫理	0004		2	2								Fujii Taketo	
General	Elective	生命科学	0008		2	2								Ota Naotomo	
General	Compulsory	基礎物理学	0022		2	2								Yoshida Takehito	
Specialized	Compulsory	安全衛生工学	0010		2	2								Tagami Takanori	
Specialized	Compulsory	化学工学基礎	0011		2	2								Zheng Tao	
Specialized	Elective	線形代数論	0013		2	2								Sugino Ryuzaburo	
Specialized	Elective	情報処理演習	0014		1	4									
Specialized	Elective	解析学	0015		2	2								Kushida Masahiro	
General	Compulsory	英語講読	0005		2	2								Katsufuji Kazuko	
General	Compulsory	比較文化論	0006		2	2								Fujii Taketo	
General	Compulsory	環境政策論	0007		2	4								Imada Hiroyuki	
General	Elective	言語と文学	0009		2	2								Tsuboi Taiji,Nishikori Hirofumi	

Sp eci ali ze d	Co m pu lso ry	都市環境工学	0012		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>					2			Kato Kenji,	
				2											
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	応用線形代数	0016		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>4</td><td></td><td></td></tr></table>					4			Sugino Ryuza buro	
				4											
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	信号処理工学	0017		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>					2			Yasun o Emiko	
				2											
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	経営工学	0018		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr></table>							2	Yoshid a Susum u	
						2									
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	化学工学基礎 2	0019		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr></table>							2		
						2									
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	応用解析学	0020		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td></tr></table>					2			Sugino Ryuza buro	
				2											
Sp eci ali ze d	El ec tiv e	現代物理学	0021		2	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td></tr></table>							2	Matsu o Toshih iro	
						2									

Anan College		Year	2016		Course Title	工業英語	
Course Information							
Course Code	0001			Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st		
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	READING EXPLORE 2 (CENGAGE Learning)						
Instructor	Fujii Hiromi						
Course Objectives							
1.500語程度の英文を読んで、その概要を正確に理解できる。 2.科学的読み物や科学英語論文に出てくる語彙や構文を習得し、別の文脈において適切に運用できる。 3.教材で扱われたテーマに関して、自分の意見や考えを英文で表現できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標1	500語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解し、要点を英語でまとめることができる。		500語程度の英文エッセイを読んで、その概要を理解し、本文中の表現を使いながら要約できる。		500語程度の英文エッセイを読んで、その概要を正確に理解できない。		
到達目標2	科学英語独特の語彙・語法・表現を適切に文脈の中で理解し、別の文脈において運用できる。		科学英語独特の語彙・語法・表現を適切に文脈の中で理解できる。		科学英語独特の語彙・語法・表現を適切に文脈の中で理解できない。		
到達目標3	教材で扱われたテーマに関して、自分の意見や考えを、パラグラフを意識して英文で表現できる。		教材で扱われたテーマに関して、自分の意見や考えを、100語～200語程度の英文で表現できる。		教材で扱われたテーマに関して、自分の意見や考えを伝えることができない。		
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	科学的トピックを扱った300～500語程度の英文読解を通して、英語論文の読解に必要なスキルを習得する。また、科学的内容の読み物に特有の英語表現、論文の構成などに慣れ親しみ、応用するための基礎力を養う。						
Style	1. 英語論文表現を演習形式で身につける。 2. 様々なジャンルやトピックの英文を読み、その概要をつかみとるなど読解力の向上を目指す。 3. それぞれの読み物に関連したテーマについて、自らの意見や考えを150～250語程度の英文で表現する。						
Notice	工業英検 3 級、準 2 級の取得を期待する						
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	Orientation Unit 1 Food and Health		Understanding syllabus Skimming for the main idea of paragraphs		
		2nd	Unit 2 Our Bond with Animals		Scanning for details		
		3rd	Unit 3 History Detectives		Distinguishing facts from events		
		4th	Unit 4 Traditions and Rituals		Differentiating between main ideas and supporting details		
		5th	Unit 5 Urban Underworld		Breaking down long sentences		
		6th	Unit 6 Reef Encounters		Identifying the purpose of paragraphs		
		7th	Review				
		8th	Mid-term exam				
	2nd Quarter	9th	Unit 7 Sweet Scents		Determining Similarities and Differences		
		10th	Unit 8 Great Explorers		Understanding Time clauses / Time relations Recognizing Participle Clauses		
		11th	Unit 9 Who We Are		Evaluating Claims Understanding Inference		
		12th	Unit 10 Global Warming		Identifying types of supporting details		
		13th	Unit 11 Incredible Insects		Summarizing a text		
		14th	Unit 12 Going to Extremes		Synthesizing information form multiple sources		
		15th	Review				
		16th	Final exam				
Evaluation Method and Weight (%)							
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他		Total
Subtotal	60	10	25	0	5	0	100
基礎的能力	50	10	20	0	5	0	85
専門的能力	10	0	5	0	0	0	15
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	国際協力論
Course Information						
Course Code	0003		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture		Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade	Adv. 1st		
Term	First Semester		Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	開発援助の経済学〔第四版〕（有斐閣）/国際協力のレッスン（学陽書房）					
Instructor	Imada Hiroyuki					
Course Objectives						
1．ODAの諸類型を説明できる。 2．ODAの諸アプローチを説明できる。 3．国際協力に関する諸改革を説明できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ODAの諸類型について、細分類のそれぞれを説明できる。		ODAの諸類型につき基本的な説明ができる。		ODAの諸類型につき基本的な説明ができない。	
評価項目2	ODAの諸アプローチにつき、その意義と課題・問題点を説明できる。		ODAの諸アプローチにつき基本的な説明ができる。		ODAの諸アプローチにつき基本的な説明ができない。	
評価項目3	国際協力に関する諸改革につき、その意義と課題・問題点を説明できる。		国際協力に関する諸改革につき基本的な説明ができる。		国際協力に関する諸改革につき基本的な説明ができない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	この科目では、転換期を迎えたとされる日本の国際協力のあり方について、ODAを基軸に、多角的に学習し、その意義と課題を総合的に説明できるようになることを目標とする。					
Style	授業では、まず、国際協力の歴史を振り返る。また現在のODAの諸類型・諸アプローチを全体的に学ぶ。その上で、国際協力の主要な諸課題を検討する。そして、国際協力の実施方針・実施体制を含む諸改革の動向を学び、国際協力の今後のあり方を構想し、説明できる能力を身に付ける。					
Notice	ODA以外の国際協力のあり方についても関心を持つようにして下さい。 国際政治経済に関わる時事的な話題にも目を向けましょう。					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	1．国際協力とは何か （1）国際協力の射程 3．国際協力の主要な課題 （1）紛争予防と復興支援 （2）貧困削減 （3）持続可能な発展 （4）良き統治 4．日本の国際協力の展望 （1）ODA実施の基本方針 （2）国際協力の制度改革 【前学期末試験】		経済協力、国際貢献、国際協力について概要を説明できる。	
		2nd	（2）国際協力の歴史		国際的な国際協力の歴史やわが国の国際協力の歴史を説明できる。	
		3rd	2．ODAとは何か （1）ODAの諸類型		有償資金協力、無償資金協力、技術協力について説明できる。	
		4th	（1）ODAの諸類型		有償資金協力、無償資金協力、技術協力について説明できる。	
		5th	（2）ODAの諸アプローチ		構造調整アプローチ、人間の安全保障アプローチその他を説明できる。	
		6th	（2）ODAの諸アプローチ		構造調整アプローチ、人間の安全保障アプローチその他を説明できる。	
		7th	（2）ODAの諸アプローチ		構造調整アプローチ、人間の安全保障アプローチその他を説明できる。	
		8th	（2）ODAの諸アプローチ		構造調整アプローチ、人間の安全保障アプローチその他を説明できる。	
	2nd Quarter	9th	3．国際協力の主要な課題 （1）紛争予防と復興支援		紛争予防、平和構築などについて説明できる。	
		10th	（2）貧困削減		貧困削減、重債務貧困国支援について説明できる。	

		11th	(3) 持続可能な発展	環境問題に配慮した経済開発・発展について説明できる。
		12th	(4) 良き統治	人権保障、民主政治、平和主義について良き統治として説明できる。
		13th	4. 日本の国際協力の展望 (1) ODA実施の基本方針	ODA大綱、中期政策その他から成る政策体系を説明できる。
		14th	(2) 国際協力の制度改革	実施体制、予算措置その他の国際協力の諸改革を説明できる。
		15th	(2) 国際協力の制度改革	実施体制、予算措置その他の国際協力の諸改革を説明できる。
		16th	期末試験答案返却	

Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	0	40	0	0	100
基礎的能力	50	0	30	0	0	80
専門的能力	10	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	技術者倫理
Course Information						
Course Code	0004			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	【教科書】はじめての工学倫理・第3版(昭和堂)　　【参考書】誇り高い技術者になろう(名古屋大学出版会)					
Instructor	Fujii Taketo					
Course Objectives						
1. 技術者として社会に貢献するための倫理観を養い、自らの責任について自覚できる。 2. 事例研究やディスカッションを通じて、社会が要求する問題への認識を深め、その解決策を考えられる。 3. 将来「ものづくり」に従事する技術者として、継続して専門的知識を学習するための方法の基礎を実践できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 1	社会における技術者としての責任を十分に自覚し、みずからの倫理観について詳細に説明できる。		社会における技術者としての責任を自覚し、みずからの倫理観について詳細に説明できる。		社会における技術者としての責任についての自覚不足で、みずからの倫理観について十分に説明できない。	
到達目標 2	社会が要求する問題について、有益な自分独自の解決策を考えられる。		社会が要求する問題について、有益な解決策を考えられる。		社会が要求する問題について、十分有益な解決策を考えられない。	
到達目標 3	技術者として継続して専門的知識を学習するためのさまざまな方法を実践できる。		技術者として継続して専門的知識を学習するための方法をひとつは実践できる。		技術者として継続して専門的知識を学習するための方法を十分に実践できない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	「倫理」は本来、他人に押しつけられるものではなく、善悪の境界線を自分自身で考えるものである。それは技術者をめざす諸君も同じである。本講義では、具体的事例からうかがえる倫理的問題の検討を通して、将来、技術者として社会に貢献してゆくうえで必要な倫理観を養うことを目標とする。					
Style	事例研究の報告は事前に決めておいた学生に担当してもらう予定である。また、事例研究ごとに小レポート・ディスカッションを実施する。					
Notice	事例研究の報告の順によって、シラバスの順が前後する場合がある。					
Course Plan						
1st Semester	1st Quarter	1st	・技術者と倫理と		・社会に生きる技術者として必要な倫理観の概略について、自分の意見をまとめることができる。	
		2nd	・技術者と倫理と		・社会に生きる技術者として必要な倫理観の概略について、自分の意見をまとめることができる。	
		3rd	・技術者と倫理と		・社会に生きる技術者として必要な倫理観の概略について、自分の意見をまとめることができる。	
		4th	・技術者と倫理綱領と		・事例研究を通して、技術者に関する倫理綱領の概略について考察できる。	
		5th	・技術者と倫理綱領と		・事例研究を通して、倫理問題の解決方法について考察できる。	
		6th	・技術者と安全と		・事例研究を通して、技術者が安全について考慮すべきことを説明できる。	
		7th	・技術者と安全と		・事例研究を通して、技術者が安全について考慮すべきことを説明できる。	
		8th	・技術者と環境と		・環境汚染事故に関する事例研究を通して、技術者が環境に配慮すべきことについて考察できる。	
	2nd Quarter	9th	・技術者と環境と		・環境汚染事故に関する事例研究を通して、技術者が環境に配慮すべきことについて考察できる。	
		10th	・技術者と消費者と		・事例研究を通して、消費者に対する技術者の責任について考察できる。	
		11th	・技術者と消費者と		・事例研究を通して、消費者に対する技術者の責任について考察できる。	
		12th	・技術者と社会と		・セクハラ・賄賂等の事例研究を通して、技術者と社会全体とのかかわりについて考察できる。	
		13th	・技術者と社会と		・セクハラ・賄賂等の事例研究を通して、技術者と社会全体とのかかわりについて考察できる。	
		14th	・組織で働く者としての技術者		・事例研究を通して、組織の中で働く技術者として守るべきモラル・組織と個人との間の葛藤・内部告発問題等について考察できる。	
		15th	・組織で働く者としての技術者		・事例研究を通して、組織の中で働く技術者として守るべきモラル・組織と個人との間の葛藤・内部告発問題等について考察できる。	
		16th	期末試験答案返却時間			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	25	0	55	20	0	100
基礎的能力	15	0	25	10	0	50

專門的能力	5	0	10	5	0	20
分野横断的能力	5	0	20	5	0	30

Anan College		Year	2016		Course Title	生命科学	
Course Information							
Course Code	0008			Course Category	General / Elective		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st		
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	現代生命科学，東京大学生命科学教科書編集委員会，羊土社						
Instructor	Ota Naotomo						
Course Objectives							
1.細胞及び遺伝子とその発現，伝達，環境との相互作用を理解している。 2.細胞分化，神経伝達，細胞周期，代謝，免疫など，生物の成長と恒常性維持の仕組みを理解している 3.ヒト社会と自然環境の関わりを理解している。 4.生命倫理の課題を理解している。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1.細胞及び遺伝子とその発現，伝達，環境との相互作用を理解している。	1.細胞及び遺伝子とその発現，伝達，環境との相互作用を詳細に理解している。			1.細胞及び遺伝子とその発現，伝達，環境との相互作用を理解している。		1.細胞及び遺伝子とその発現，伝達，環境との相互作用を理解していない。	
2.細胞分化，神経伝達，細胞周期，代謝，免疫など，生物の成長と恒常性維持の仕組みを理解している。	2.細胞分化，神経伝達，細胞周期，代謝，免疫など，生物の成長と恒常性維持の仕組みを詳細に理解している。			2.細胞分化，神経伝達，細胞周期，代謝，免疫など，生物の成長と恒常性維持の仕組みを理解している。		2.細胞分化，神経伝達，細胞周期，代謝，免疫など，生物の成長と恒常性維持の仕組みを理解していない。	
3.ヒト社会と自然環境の関わりを理解している。	3.ヒト社会と自然環境の関わりを詳細に理解している。			3.ヒト社会と自然環境の関わりを理解している。		3.ヒト社会と自然環境の関わりを理解していない。	
4.生命倫理の課題を理解している。	4.生命倫理の課題を詳細に理解している。			4.生命倫理の課題を理解している。		4.生命倫理の課題を理解していない。	
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	生命科学は，「科学リテラシー」の一部としてその知識や情報が社会生活に必要となっており，一般常識化しつつある。また，日夜進展する生命科学の話題は社会を賑わせており，時にはヒトの存在について考えさせられたり，「生命倫理」問題として直面することもある。本講義によって，「ヒトとは何か」を知り，「生命科学の発展に私たちはどのように対応していくのか」という根源的な問題に対応できるような知識と判断力を修得する。						
Style	講義						
Notice							
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	生命科学と現代社会のかかわり		生物の定義，細胞の構成分子を説明できる		
		2nd	生命はどのように設計されているか		細胞の構造と細胞小器官の働きを説明できる		
		3rd	生命はどのように設計されているか		遺伝子の構造，複製を説明できる		
		4th	生命はどのように設計されているか		遺伝子の発現を説明できる		
		5th	ゲノム情報はどのように発現するのか		ゲノムと生殖との関わりや遺伝子の発現調節を説明できる		
		6th	ゲノム情報はどのように発現するのか		エピゲノムの仕組みを説明できる		
		7th	複雑な体はどのようにしてつくられるのか		発生，細胞分化，器官形成，成長・老化を説明できる		
		8th	中間試験		満点をとる		
	2nd Quarter	9th	脳はどこまで分かったか		脳の構造，神経細胞と伝達を説明できる		
		10th	がんとはどのような現象か		細胞周期，アポトーシス，がんについて説明できる		
		11th	私たちの食と健康の関係		酵素，ATP,代謝について説明できる		
		12th	ヒトは病原体にどのように備えるか		感染と免疫について説明できる		
		13th	環境と生物はどのようにかかわるか		環境への適応，進化，有性生殖の意義について説明できる		
		14th	環境と生物はどのようにかかわるか		生態系の機能と生物多様性の保全について説明できる		
		15th	生命倫理はどこに向かいつつあるか		生命倫理の原則と課題について説明できる		
		16th	期末試験		満点をとる		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	90	0	0	0	0	10	100
基礎的能力	90	0	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	基礎物理学	
Course Information							
Course Code		0022		Course Category		General / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		: 2	
Department		専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade		Adv. 1st	
Term		First Semester		Classes per Week		前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials		理・工基礎「解析力学」（裳華房）/物理入門コース2「解析力学」（岩波書店）					
Instructor		Yoshida Takehito					
Course Objectives							
1. ラグランジュ方程式・正準方程式・ポアッソンの括弧式などを具体的力学問題の定量的解法に活用することができる。 2. ギブス分布・マックスウェルの速度分布則・ボルツマンの原理・分配関数の概念を理解し、定量的取り扱いができる。 3. 古典粒子系の物理量の期待値（熱力学的諸量）を、統計的手法を用いて、定量的に導出することができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ラグランジュ方程式・正準方程式・ポアッソンの括弧式などを応用的力学問題の定量的解法に活用できる。		ラグランジュ方程式・正準方程式・ポアッソンの括弧式を力学問題に適用し定量解を得ることができる。		ラグランジュ方程式・正準方程式・ポアッソンの括弧式を力学問題に適用し定量解を得ることができない。	
評価項目2		ギブス分布・マックスウェルの速度分布則・ボルツマンの原理・分配関数、の応用的定量活用ができる。		ギブス分布・マックスウェルの速度分布則・ボルツマンの原理・分配関数の定量解を得ることができる。		ギブス分布・マックスウェルの速度分布則・ボルツマンの原理・分配関数の定量解を得ることができない。	
評価項目3		応用的古典粒子系の物理量の期待値（熱力学的諸量）を、統計的手法を用いて、定量的に導出できる。		古典粒子系の物理量の期待値（熱力学的諸量）を、統計的手法を用いて、定量的に導出できる。		古典粒子系の物理量の期待値（熱力学的諸量）を、統計的手法を用いて、定量的に導出できない。	
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline		本講義は、本科で学んだ古典力学の基礎を、より解析的手法を強化しながら体系化する。次に現代物理学への橋渡しとして、ミクロスコピック手法の代表である統計力学の基礎概念を習得し、工学応用で重要となる物質の性質を数理科学的に理解することを学ぶ。					
Style							
Notice		本講義は予備知識として、本科において学んだ「応用物理1, 2, 3」「応用数学1, 2」の内容を前提とする。これらをスプリングボードとして、古典力学を解析的な手法によって体系化し総仕上げとする。次に「現代物理学」への導入として統計力学の基礎概念を学ぶ。そして工学応用上で重要な物質の諸物理量を、ミクロスコピックな手法を用いて定量的に算出する方法を学ぶ。					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	1. 解析力学		ニュートン形式力学の問題を解析的に解くことができる。		
		2nd	1. 解析力学		ラグランジュ方程式を導出し簡単な問題に適用し解くことができる。		
		3rd	1. 解析力学		ラグランジュ方程式を応用問題に適用し解くことができる。		
		4th	1. 解析力学		ハミルトンの正準方程式を導出し簡単な問題に適用し解くことができる。		
		5th	1. 解析力学		ハミルトンの正準方程式を応用問題に適用し解くことができる。		
		6th	1. 解析力学		ポアッソンの括弧式に関する基本規則を計算でき、これを用いて運動方程式を表現できる。		
		7th	1. 解析力学		1次元の連成微小振動系に対し運動方程式を立て基準振動数を導出することができる。		
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	2. 統計力学の基本		熱力学における自由エネルギーから熱力学的諸量を計算できる。ガンマ空間の概念を理解し定性的に説明できる		
		10th	2. 統計力学の基本		平等確率の仮説を理解し定性的に説明できる。ギブス分布を導出し物理的意味を説明できる		
		11th	2. 統計力学の基本		マックスウェルの速度分布即を導出し分子速度に関する諸量を計算できる		
		12th	2. 統計力学の基本		ボルツマンの原理と分配関数の物理的意味を理解し説明できる		
		13th	2. 統計力学の基本		分配関数と自由エネルギーの関係を導出できてその意味を説明できる		
		14th	3.統計力学の応用		相互作用のない粒子系の物理量期待値を計算できる。理想気体の状態方程式を理論的に導出できる		
		15th	3.統計力学の応用		固体の比熱モデル（デュロン・プティ（古典）、アインシュタイン（量子））を導出でき、固体の比熱を温度の関数として導出することができる		
		16th	期末試験答案返却・解説				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他		Total

Subtotal	70	0	30	0	0	0	100
基礎的能力	20	0	10	0	0	0	30
專門的能力	40	0	10	0	0	0	50
分野横断的能力	10	0	10	0	0	0	20

Anan College		Year	2016		Course Title	安全衛生工学
Course Information						
Course Code	0010			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	教科書「第 1 種 第 2 種 衛生管理者テキスト」（高橋書店）					
Instructor	Tagami Takanori					
Course Objectives						
1. 労働衛生・労働生理に関する基本的事項を理解し，説明できる。 2. 労働安全衛生法に関する規則・通達等を理解し，説明できる。 3. 有機溶剤中毒および特定化学物質障害に関する予防規則を理解し，説明できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 1	労働衛生・労働生理に関する基本的事項を理解し，具体的な事例に関して説明できる。		労働衛生・労働生理に関する基本的事項を理解し，説明できる。		労働衛生・労働生理に関する基本的事項を理解できない。	
到達目標 2	労働安全衛生法に関する規則・通達等を理解し，具体的な事例に関して説明できる。		労働安全衛生法に関する規則・通達等を理解し，説明できる。		労働安全衛生法に関する規則・通達等を理解できない。	
到達目標 3	有機溶剤中毒および特定化学物質障害に関する予防規則を理解し，具体的な事例に関して説明できる。		有機溶剤中毒および特定化学物質障害に関する予防規則を理解し，説明できる。		有機溶剤中毒および特定化学物質障害に関する予防規則を理解できない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	日本の業務上疾病者数は，長期的には減少していたものの，近年は横ばいとなっており，有機溶剤中毒，酸素欠乏症等の職業性疾病が繰り返し発生している状況にある。事業場において安全衛生管理を適切に進めていくためには，作業管理・作業環境管理・健康管理等に関する十分な知識を有していることが不可欠である。本講義では，労働環境に潜む危険性を安全衛生工学という学問的視点で捉え，危険性とその対処の仕方について具体的に学び，快適な職場環境づくりの方法について学習していく。					
Style	化学，熱力学，環境工学などの基礎的知識が必要であるので，事前に学習しておくこと。					
Notice						
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	作業環境要素	温熱環境，空気中の有害物質について説明できる。		
		2nd	職業性疾病	じん肺，金属・化学物質による職業病，職業がんについて説明できる。		
		3rd	職業性疾病	じん肺，金属・化学物質による職業病，職業がんについて説明できる。		
		4th	労働衛生管理	作業環境管理，作業管理，健康管理について説明できる。		
		5th	循環器系及び血液，呼吸器系	血液の循環及び心臓，血液，呼吸器系について説明できる。		
		6th	神経系，内分泌系，代謝系	神経系，内分泌系，基礎代謝等について説明できる。		
		7th	神経系，内分泌系，代謝系	神経系，内分泌系，基礎代謝等について説明できる。		
		8th	前期中間試験			
	2nd Quarter	9th	労働安全衛生法	安全衛生管理体制，安全衛生教育，作業環境測定について説明できる。		
		10th	労働安全衛生規則の衛生基準	有害な作業環境について説明できる		
		11th	労働安全衛生規則の衛生基準	有害な作業環境について説明できる		
		12th	有機溶剤中毒予防規則	定義，設備，管理等について説明できる		
		13th	有機溶剤中毒予防規則	定義，設備，管理等について説明できる		
		14th	特定化学物質障害予防規則	定義，取扱いに係る設備，管理等について説明できる。		
		15th	特定化学物質障害予防規則	定義，取扱いに係る設備，管理等について説明できる。		
		16th	前期末試験返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	40	0	20	0	0	60
専門的能力	20	0	10	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10

Anan College		Year	2016		Course Title	化学工学基礎
Course Information						
Course Code	0011			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	標準化学工学					
Instructor	Zheng Tao					
Course Objectives						
1. 化学装置、化学機械の基礎について理解できる。 2. 物質およびエネルギーの収支、流れ、操作について理解し、基礎的な計算ができる。 3. 流体の物質収支、エネルギー収支を理解し、エネルギー損失および動力の計算ができる。 4. 反応工学の基礎として、反応速度を理解し、基礎的な計算ができる。 5. 連続、回分反応装置について理解し、反応器の設計に関する計算ができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	化学装置、化学機械について理解できる。		化学装置、化学機械の基礎について理解できる。		化学装置、化学機械の基礎について理解できない。	
評価項目2	物質およびエネルギーの収支、流れ、操作について理解し、計算ができる。		物質およびエネルギーの収支、流れ、操作について理解し、基礎的な計算ができる。		物質およびエネルギーの収支、流れ、操作について理解できない。基礎的な計算ができない。	
評価項目3	. 流体の物質収支、エネルギー収支を理解し、エネルギー損失および動力の計算ができる。		. 流体の物質収支、エネルギー収支を理解し、エネルギー損失および動力の基礎的な計算ができる。		. 流体の物質収支、エネルギー収支を理解できない。エネルギー損失および動力の計算ができない。	
評価項目4	. 反応工学の基礎として、反応速度を理解し、計算ができる。		. 反応工学の基礎として、反応速度を理解し、基礎的な計算ができる。		. 反応工学の基礎として、反応速度を理解し、基礎的な計算ができない。	
評価項目5	連続、回分反応装置について理解し、反応器の設計に関する計算ができる。		連続、回分反応装置について理解し、反応器の設計に関する基礎的な計算ができる。		連続、回分反応装置について理解できない。反応器の設計に関する計算ができない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	私たちの身の周りの化学製品の多くは、実験室での研究が出発点になっているが、それらの製品を安全に経済的に生産するには、大規模な生産設備が必要である。そのために必要な工学が化学工学である。本授業は化学工学の基礎について紹介する。					
Style	化学工学の基礎として、まず、化学プロセスを構成する各種の装置、設備の概要を理解させる。次に、化学工学の基本となる物質収支とエネルギー収支の考え方と計算法を、単位の換算を含めて、例題によって解説する。次に、流体の流れと熱の移動についての基礎と計算方法を述べる。最後は反応工学の基礎となる反応速度、反応率などを紹介し、化学プロセスを構成する各種の化学装置の概要と設計方程式について述べる。					
Notice	基礎式の導入、数式の展開、式の意味と使い方を重点において、演習問題を丁寧に解く。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	化学工学はどういう学問なのか、化学工学に含まれる分野と取り扱う問題について説明し、化学装置、化学機械の基礎を紹介する。	化学工学の分野と重要性について理解する。		
		2nd	化学工学の単位、具体的な問題に基づいて、物質収支の考え方と計算方法を紹介する。	単位換算ができる。物質収支を理解し、簡単な物理的操作の物質収支の計算ができる。		
		3rd	化学プロセスにおける物質収支の種類と計算方法を紹介する。	化学プロセスにおける物質収支を理解し、計算ができる。		
		4th	エネルギー保存の法則を紹介し、エネルギー収支の計算方法を紹介する。	反応を伴わない場合のエネルギー収支の計算ができる。		
		5th	物質収支とエネルギー収支のまとめ。			
		6th	流体の性質、分類、粘度を紹介する。	流体の性質、分類、粘度を理解する。		
		7th	流れの状態（層流、乱流）を紹介し、流速分布を教える。	層流と乱流について理解し、流速分布についての計算ができる。		
		8th	摩擦などによる流れのエネルギー損失の計算方法を紹介する。	摩擦などによる流れのエネルギー損失の計算ができる。		
	2nd Quarter	9th	伝熱の三種類を紹介し、伝導伝熱に関する計算を教える。	伝熱の方式を理解し、伝導伝熱に関する計算ができる。		
		10th	流体と伝熱のまとめ。			
		11th	反応工学の概要を紹介し、反応の分類法と反応速度の定義を紹介する。	反応工学の概要を理解し、反応速度の基本形を理解する。		
		12th	反応の物質量和反応率を紹介し、反応の量論関係について教える。	反応の物質量和反応率を理解し、反応率の計算ができる。		
		13th	反応器と反応操作の分類と反応物質に流れを紹介する。	反応器と反応操作の分類と反応物質に流れを理解する。		
		14th	反応時間、反応率、反応器体積の間の関係を紹介し、反応器の設計方程式を教える。	反応速度の解析と反応器の設計ができる。		
		15th	復習、演習とまとめ。	復習、演習とまとめ。		
		16th	試験	試験		
Evaluation Method and Weight (%)						

	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	0	10	0	0	50
専門的能力	30	0	10	0	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10

Anan College		Year	2016		Course Title	線形代数論	
Course Information							
Course Code	0013			Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st		
Term	Second Semester			Classes per Week	後期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	演習と応用 線形代数（サイエンス社）/工科の数学 線形代数とベクトル解析（培風館）						
Instructor	Sugino Ryuzaburo						
Course Objectives							
1. 一般次元の線形空間を理解し、基本的な行列計算ができる。 2. 一般化された線形方程式の意味を理解し、解集合を求めることができる。 3. N次元の連立方程式の概念を理解し、基礎的な線形計算ができる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	一般次元の線形空間を理解し、基本的な行列計算ができ、応用できる。		一般次元の線形空間を理解し、基本的な行列計算ができる。		一般次元の線形空間を理解し、基本的な行列計算ができない。		
評価項目2	一般化された線形方程式の意味を理解し、解集合を求めることができ、応用できる。		一般化された線形方程式の意味を理解し、解集合を求めることができる。		一般化された線形方程式の意味を理解し、解集合を求めることができない。		
評価項目3	N次元の連立方程式の概念を理解し、基礎的な線形計算ができ、応用できる。		N次元の連立方程式の概念を理解し、基礎的な線形計算ができる。		N次元の連立方程式の概念を理解し、基礎的な線形計算ができない。		
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	エンジニアリングの設計分野で創造的な仕事をするには、線形代数論の基礎的な概念と計算力が必要不可欠である。本科で履修した線形代数を基礎として数ベクトル空間と行列演算を一般次元で理解する。また、N次元の連立方程式と行列計算について学習し、一般次元の基礎的な線形計算を習得する。						
Style							
Notice	本科で学んだ数学（線形代数・ベクトル解析）を復習すること。テキストを予習し、集中した授業を成立させること。						
Course Plan							
			Theme	Goals			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	線形空間	N次元ユークリッド空間と内積について理解し、説明できる。			
		2nd	線形空間	N次元ユークリッド空間と内積について理解し、説明できる。			
		3rd	線形空間	線形方程式の解集合について理解し、説明できる。			
		4th	線形空間	線形方程式の解集合について理解し、説明できる。			
		5th	行列演算	一般次元の行列の性質を理解し、説明できる。			
		6th	行列演算	一般次元の行列の性質を理解し、説明できる。			
		7th	行列演算	一般次元の行列式の性質と応用について理解し、説明できる。			
		8th	行列演算	一般次元の行列式の性質と応用について理解し、説明できる。			
	4th Quarter	9th	中間試験				
		10th	連立方程式と行列のランク	行列のランクを理解し、基礎的な計算ができる。			
		11th	連立方程式と行列のランク	行列のランクと連立方程式の解集合の関係を理解し、基礎的な計算ができる。			
		12th	連立方程式と線形空間	同次方程式の一般解を理解し、基礎的な計算ができる。			
		13th	連立方程式と線形空間	同次方程式の一般解を理解し、基礎的な計算ができる。			
		14th	線形空間の基底と次元	ベクトルの線形結合と一次関係式について理解し、説明できる。			
		15th	線形空間の基底と次元	線形空間の基底と次元について理解し、説明できる。			
		16th	答案返却				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	20	0	50
専門的能力	20	0	0	0	10	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	20

Anan College		Year	2016		Course Title	情報処理演習
Course Information						
Course Code	0014			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Seminar			Credits	: 1	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	Second Semester			Classes per Week	後期:4	
Textbook and/or Teaching Materials	基礎からのPHP(SBクリエイティブ)					
Instructor						
Course Objectives						
1. 科学技術ソフトウェアScilabによるプログラミングができる。 2. 科学技術ソフトウェアMaximaによるプログラミングができる。 3. PHPによるプログラミングができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	他アプリケーションソフトウェアとの連携を通じて科学技術プログラムを作成できる。		プログラムの開発ができる。		Scilab利用可能とするプログラム開発環境として設定できない。	
評価項目2	他アプリケーションソフトウェアとの連携を通じて科学技術プログラムを作成できる		プログラムの開発ができる		Maxima利用可能とするプログラム開発環境として設定できない。	
評価項目3	PHPとデータベースソフト（MySQLなど）と関連してWeb開発プログラムが作成できる。		PHPの基本構文の作成ができる。		PHP利用可能とするプログラム開発環境として設定できない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	本研究はコンピュータ利用による研究活動およびICT技術獲得に必要な情報技術を習得する。最初に数値シミュレーションやデータ分析に有用な科学技術ソフトウェアScilabとMaximaを習得する。次にWeb作成ソフトウェアPHPを学ぶ。各ソフトウェア言語について文法および制御構造などを習得と数値計算やWeb関連等のプログラミング演習を行うことにより、情報処理技術の習熟を図る。					
Style	毎授業ごとに課題を与えます。課題解決は自ら考え、その結果を電子媒体を通じて提出してください。					
Notice	本演習では多岐にわたる課題を数多く与えます。継続して学習（プログラミング）することにより、情報処理技術が定着し、各自がもつ専門知識と相まって複合的な知識の習得の手助けになります。なお、本演習は後期後半からのクォータ授業です。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Scilabのインストールと環境設定、概略説明	(1) Scilabの概要説明とインストールや環境設定ができる。		
		2nd	Scilabによるプログラミング演習 1	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる		
		3rd	Scilabによるプログラミング演習 2	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる。		
		4th	Scilabによるプログラミング演習 3	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる。		
		5th	Scilabによるプログラミング演習 4	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる。		
		6th	Scilabによるプログラミング演習 5	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる。		
		7th	Maximaによるプログラミング演習 1	(1) Maximaの概要と基本スタイルが説明できる。 (2) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。		
		8th	Maximaによるプログラミング演習 2	(1) ライブラリの使用・他ファイルとの連携が説明できる。 (2) 数値計算やシミュレーション演習を通じてプログラムが作成できる。		
	4th Quarter	9th	PHPによるプログラミングと環境設定、概略説明	(1) PHPの概要と基本スタイルが説明できる。 (2) PHPのインストールと環境設定ができる		
		10th	PHPによるプログラミング演習 1	(1) PHPの概要と基本スタイルが説明できる。 (2) PHPによる簡単なプログラムが作成できる。		
		11th	PHPによるプログラミング演習 2	(1) PHPの基本スタイルが説明できる。 (2) PHPによるプログラムが作成できる。		
		12th	PHPによるプログラミング演習 3	(1) Webページからのデータ通信ができる。 (2) PHPによる通信プログラムが作成できる。		
		13th	PHPによるプログラミング演習 4	(1) Webページからのデータ通信ができる。 (2) PHPによる通信プログラムが作成できる。		

		14th	PHPによるプログラミング演習 5	(1) データベースとの連携ができることを説明できる
		15th	PHPによるプログラミング演習 6	(1) データベースとの連携ができることを説明できる
		16th		

Evaluation Method and Weight (%)								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート評価	Total
Subtotal	0	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	20	20

Anan College		Year	2016		Course Title	解析学
Course Information						
Course Code	0015			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 1st	
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	「基礎解析学コース 微分方程式」矢野健太郎他 裳華房					
Instructor	Kushida Masahiro					
Course Objectives						
1. 変数分離形,同次形,完全微分形の1階微分方程式を解くことができる。 2. 線形微分方程式を解くことができる。 3. 微分演算子を用いて定数係数線形微分方程式を解くことができる。 4. 級数を用いて微分方程式を解くことができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 1	やや複雑な変数分離形,同次形,完全微分形の1階微分方程式を解くことができる。		基本的な変数分離形,同次形,完全微分形の1階微分方程式を解くことができる。		変数分離形,同次形,完全微分形の1階微分方程式を解くことができない。	
到達目標 2	やや複雑な線形微分方程式を解くことができる。		基本的な線形微分方程式を解くことができる。		線形微分方程式を解くことができない。	
到達目標 3	微分演算子を用いて, やや複雑な定数係数線形微分方程式を解くことができる。		微分演算子を用いて, 簡単な定数係数線形微分方程式を解くことができる。		微分演算子を用いて定数係数線形微分方程式を解くことができない。	
到達目標 4	級数を用いてやや複雑な微分方程式を解くことができる。		級数を用いて簡単な微分方程式を解くことができる。		級数を用いて微分方程式を解くことができない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	理工系の分野において,微分方程式は現象を解明するのに最も良く使われている手段である。本講義では基本的な微分方程式の解法を学んだ後,微分演算子ならびに級数を用いた解法を修得する。					
Style	授業は講義と演習形式で行う。					
Notice	1. 既習の数学(微分積分,線形代数,応用数学)の復習を心掛けること。 2. 教科書の基本的な問題を予習して,積極的な姿勢で講義に臨むこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	微分方程式と解	微分方程式に関する用語が理解できる。		
		2nd	変数分離形微分方程式	変数分離形微分方程式を解くことができる。		
		3rd	同次形微分方程式	同次形微分方程式を解くことができる。		
		4th	1 階線形微分方程式	1 階線形微分方程式を解くことができる。		
		5th	完全微分方程式	完全微分方程式を解くことができる。		
		6th	その他の微分方程式	ある種の 2 階微分方程式を 1 階微分方程式に帰着して解くことができる。		
		7th	線形微分方程式	線形微分方程式の性質を理解することができる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	微分演算子	演算子の定義および基本性質が理解できる。		
		10th	定数係数線形同次微分方程式	演算子を用いて定数係数線形同次微分方程式を解くことができる。		
		11th	逆演算子	逆演算子の定義および基本性質が理解できる。		
		12th	定数係数線形微分方程式	逆演算子を用いて定数係数線形非同次微分方程式の特殊解が求められる。		
		13th	連立微分方程式	演算子を用いて連立微分方程式を解くことができる。		
		14th	級数による解法(1)	1階微分方程式を級数により解くことができる。		
		15th	級数による解法(2)	2 階微分方程式を級数により解くことができる。		
		16th	期末試験返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	40	0	20	0	0	60
専門的能力	20	0	10	0	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10

Anan College		Year	2016		Course Title	比較文化論
Course Information						
Course Code	0006			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd	
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials	【教科書】使用しない。適宜、プリント資料を配付する。 【参考書】 菊と刀(講談社学術文庫)					
Instructor	Fujii Taketo					
Course Objectives						
1. 東アジアを中心とする国際社会の歴史（特に近現代）の学習を通して、周囲の文化に対する理解を深められる。 2. 日本と中国との文化の比較を通して、日本人としての自覚を高め、その類似点・相違点を説明することができる。 3. 中国語会話の練習を通して、言語の方面から異文化に対する関心を深められる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標1	東アジア地域を含む国際社会の歴史（特に近現代）について詳細に説明できる。		東アジア地域を含む国際社会の歴史（特に近現代）について、その概要を説明できる。		東アジア地域を含む国際社会の歴史（特に近現代）について十分に説明できない。	
到達目標2	日本文化と中国文化との類似点・相違点を詳細に説明できる。		日本文化と中国文化との類似点・相違点について、その概要を説明できる。		日本文化と中国文化との類似点・相違点について十分に説明できない。	
到達目標3	中国語会話の基礎（スピーキング・ヒアリング）について、十分に実践できる。		中国語会話の基礎（スピーキング・ヒアリング）について、最低限実践できる。		中国語会話の基礎（スピーキング・ヒアリング）について、十分に実践できない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	異文化と比較することによって、自分自身が基底とする日本文化に対する意識を高める。本講義では、特に日本以外の東アジア地域（中国・朝鮮等）の文化と日本文化との類似点・相違点に関する問題をいくつか取り上げて概説する。特に時事問題をできる限り取り上げて、国際社会に生きる技術者としての自覚を高めてもらいたい。					
Style	基本的に講義形式だけれども、各時間でテーマを設定して議論もしてゆきたい。					
Notice	毎回の予習・復習をしっかりともらいたい。また、中国語会話の練習は、適宜、講義時間中にさしはさむ。					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester r	1st Quarter	1st	・異文化を比較することの意味		・文化の比較の必要性・留意点について、説明できる。	
		2nd	・異文化を比較することの意味		・文化の比較の必要性・留意点について、説明できる。	
		3rd	・異文化を比較することの意味		・日本文化と中国文化との相違点について、その具体例を説明できる。	
		4th	・中国と台湾と		・中華人民共和国を中心とした東アジア近現代史の流れについて、その概要を説明できる。	
		5th	・中国と台湾と		・台湾を中心とした東アジア近現代史の流れについて、その概要を説明できる。	
		6th	・日本語と中国語と		・主に漢字について日本語・中国語の類似点・相違点について説明できる。	
		7th	・日本語と中国語と		・主に漢字について日本語・中国語の類似点・相違点について説明できる。	
		8th	・中国・朝鮮と儒教文化と		・中国・日本を例に、伝統的な儒教文化の影響の有無について説明できる。	
	2nd Quarter	9th	・日本の文化と中国の文化と		・中国文化の日本文化への影響について、具体例を用いてその概要を説明できる。	
		10th	・日本の文化と中国の文化と		・中国文化の日本文化への影響について、具体例を用いてその概要を説明できる。	
		11th	・日本の文化と中国の文化と		・中国語会話の基礎練習を通して、初歩的会話ができる。	
		12th	・日本の文化と中国の文化と		・中国語会話の基礎練習を通して、初歩的会話ができる。	
		13th	・日本の文化と中国の文化と		・中国語会話の基礎練習を通して、初歩的会話ができる。	
		14th	・日本の文化と中国の文化と		・中国語会話の基礎練習を通して、初歩的会話ができる。	
		15th	・日本の文化と中国の文化と		・中国語会話の基礎練習を通して、初歩的会話ができる。	
		16th	期末試験答案返却時間			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	0	40	0	0	100
基礎的能力	50	0	30	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野的横断能力	10	0	10	0	0	20

Anan College		Year	2016		Course Title	環境政策論
Course Information						
Course Code	0007			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	: 2	
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd	
Term	First Semester			Classes per Week	4	
Textbook and/or Teaching Materials	環境法（有斐閣）/環境法（弘文堂）					
Instructor	Imada Hiroyuki					
Course Objectives						
1. 公害・環境訴訟の動向を説明できる。 2. 環境基本法システムを説明できる。 3. 環境政策の諸手法を説明できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	公害・環境訴訟の基本的な動向に即して、その意義と課題を説明できる。		公害・環境訴訟の基本的な動向を説明できる。		公害・環境訴訟の基本的な動向を説明できない。	
評価項目2	環境倫理や憲法の環境権論と環境基本法システムの関連性について説明できる。		環境基本法を基軸とした法システムにつき基本的な説明ができる。		環境基本法を基軸とした法システムにつき基本的な説明ができない。	
評価項目3	環境政策の諸手法につき、その意義と課題を説明できる。		環境政策の諸手法につき基本的な説明ができる。		環境政策の諸手法につき基本的な説明ができない。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	この科目では、環境問題をめぐる政策的対応のあり方について総合的に学習し、その全体像を構想できるようになることを目標とする。					
Style	授業では、まず、公害・環境破壊・地球環境問題の現実について、技術者の責任にも配慮しつつ共通の認識を得る。そして、新しい環境倫理を学び、公害・環境訴訟の動向も理解する。その上で、環境基本法を基軸とした環境総合政策の多様な手法を検討し、全体的に説明できる能力を身に付ける。					
Notice	様々な環境問題について、広い視野で関心を持つようにして下さい。 環境保全・環境創造を社会システム全体との関わりで考えながら履修しましょう。					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	1. 環境問題とは何か （1）公害・環境破壊		公害・環境破壊につき、水俣病問題を基本例にして説明できる。	
		2nd	（1）公害・環境破壊		公害・環境破壊につき、水俣病問題を基本例にして説明できる。	
		3rd	（2）地球環境問題		地球環境問題について説明できる。	
		4th	2. 環境と倫理 （1）新しい環境倫理		世代間倫理について説明できる。	
		5th	（2）新しい環境基本理念		環境基本法の三つの基本理念について説明できる。	
		6th	3. 環境法の理論・制度の経緯 （1）公害・環境訴訟		環境民事訴訟・環境行政訴訟の動向について説明できる。	
		7th	（1）公害・環境訴訟		環境民事訴訟・環境行政訴訟の動向について説明できる。	
		8th	（1）公害・環境訴訟		環境民事訴訟・環境行政訴訟の動向について説明できる。	
	2nd Quarter	9th	（2）環境基本法システム		憲法・基本法・個別法の体系について説明できる。 環境基本法システムの概要について説明できる。	
		10th	4. 環境総合政策 （1）環境と法・行政		規制法、環境影響評価法、循環基本法等について説明できる。	
		11th	（1）環境と法・行政		規制法、環境影響評価法、循環基本法等について説明できる。	
		12th	（1）環境と法・行政		規制法、環境影響評価法、循環基本法等について説明できる。	
		13th	（2）環境と経済		費用負担、経済的措置、環境 I S O 等について説明できる。	
		14th	（2）環境と経済		費用負担、経済的措置、環境 I S O 等について説明できる。	
		15th	（3）環境と国際関係		環境正義の意義、環境と開発、環境と国際法等について説明できる。	
		16th	期末試験答案返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	60	0	40	0	0	100
基礎的能力	50	0	30	0	0	80
専門的能力	10	0	10	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	言語と文学
Course Information						
Course Code	0009		Course Category	General / Elective		
Class Format	Lecture		Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade	Adv. 2nd		
Term	First Semester		Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	高専日本語アビリティⅠ・Ⅱ（阿南高専）					
Instructor	Tsuboi Taiji,Nishikori Hirofumi					
Course Objectives						
1.近代の小説・評論、日本語などの特徴をとらえ、説明できる。 2.理解したことを効果的に伝える方法を考え、社会で活用できるファシリテーションを実践できる。 3.代表的な和歌文学について特徴を理解し、説明できる。 4.小説・評論等について、言葉の時代背景を含めて鑑賞できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	近代の小説・評論、日本語などの特徴をとらえ、適切に説明できる。		近代の小説・評論、日本語などの特徴をとらえ、説明できる。		近代の小説・評論、日本語などの特徴をとらえた説明に欠ける。	
評価項目2	効果的に伝える方法を考え、実践をとおして社会で活用できるファシリテーションを整理できる。		効果的に伝える方法を考え、社会で活用できるファシリテーションを実践できる。		効果的に伝える方法を考え、社会で活用できるファシリテーションを実践することに欠ける。	
評価項目3	代表的な和歌文学について、和歌史における位置を理解し、特徴を説明できる。		代表的な和歌文学について特徴を理解し、説明できる。		代表的な和歌文学についての理解、説明に欠ける。	
評価項目4	小説・評論等について、言葉の時代背景や現代との関連性について説明できる。		小説・評論等について、言葉の時代背景について説明できる。		小説・評論等について、言葉の時代背景についての説明に欠ける。	
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	日本文学の作品と表現を中心的対象として、著者および作品の執筆された時代背景、作品の表現・構成、表現効果などの観点から主題を理解する能力を培う。また、その理解を伝え合う経験を通して、論理的な理解とコミュニケーションの能力、主体的表現、合意形成の力を深める。					
Style						
Notice	日本語総合、日本語の表現を履修していることが望ましい。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	万葉集（讃歌）	讃歌の特徴を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		2nd	万葉集（短歌連作）	短歌連作の方法を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		3rd	万葉集（相聞）	相聞の特徴を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		4th	万葉集（挽歌）	挽歌の特徴を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		5th	古今集と新古今集	古今集、新古今和歌集の特徴を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		6th	近代短歌	代表的な近代短歌の意味を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		7th	現代短歌	代表的な現代短歌の意味を理解し、実作を通して確かめることができる。		
		8th	近代小説	著者および作品の執筆された時代背景、作品の表現・構成、表現効果などの観点から主題を理解する。		
	2nd Quarter	9th	近代小説	著者および作品の執筆された時代背景、作品の表現・構成、表現効果などの観点から主題を理解する。		
		10th	近代小説	主題への理解の共有をとおして、論理的な理解とコミュニケーションの能力、主体的表現、合意形成の力を深める。		
		11th	ファシリテーション	社会的テーマについて、情報の収集・整理にもとづき、ファシリテーションできる。		
		12th	ファシリテーション	社会的テーマについて、情報の収集・整理にもとづき、ファシリテーションできる。		
		13th	ファシリテーション	社会的テーマについて、情報の収集・整理にもとづき、ファシリテーションできる。		
		14th	ファシリテーション	ファシリテーション手法について、他のコミュニケーションとの相違点をふまえて整理し、説明できる。		
		15th	前期中間試験			
		16th	前期末試験答案返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	定期試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	35	0	35	30	0	100

基礎的能力	25	0	35	15	0	75
專門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	15	0	25

Anan College		Year	2016		Course Title	都市環境工学	
Course Information							
Course Code		0012		Course Category		Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		: 2	
Department		専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade		Adv. 2nd	
Term		First Semester		Classes per Week		前期:2	
Textbook and/or Teaching Materials							
Instructor		Kato Kenji,					
Course Objectives							
1. 都市・交通の歴史および制度について理解できる。 2. モビリティ・マネジメントについて理解できる。 3. 都市化に伴い発生する環境問題について理解する。 4. 物質の反応速度論，熱力学的なアプローチを理解する。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		都市・交通の歴史および制度について理解し，その問題に適切に解答が行える。		都市・交通の歴史および制度について理解できる。		都市・交通の歴史および制度について理解できない。	
評価項目2		モビリティ・マネジメントを理解し，この手法をどのような問題に適用できるか考えられる。		モビリティ・マネジメントについて理解できる。		モビリティ・マネジメントについて理解できない。	
評価項目3							
評価項目4							
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline		都市計画と環境問題の歴史、各種制度などの流れについて講義する。また，エネルギー問題から健康被害，経済の停滞，自然破壊等，人類の生存に関係することなどの因果関係について理解させるとともに，解決方法について、各種手法の考え方を習得させる。					
Style							
Notice							
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	都市計画と環境問題		都市計画の枠組みを理解する。 都市環境問題について理解する。		
		2nd	都市交通と環境問題		都市交通について理解する。 都市交通と都市環境問題の関係について理解する。		
		3rd	都市交通と環境問題		TDMについて理解する。		
		4th	都市交通と環境問題		LRT・コミュニティバスを用いた都市環境問題解決策を理解する。		
		5th	モビリティ・マネジメント		まち・地域とモビリティについて理解できる。		
		6th	モビリティ・マネジメント				
		7th					
		8th	前期中間試験				
	2nd Quarter	9th					
		10th					
		11th					
		12th					
		13th					
		14th					
		15th					
		16th					
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート・課題	その他	Total
Subtotal	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	10	0	10
専門的能力	80	0	0	0	10	0	90
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	応用線形代数		
Course Information								
Course Code	0016			Course Category	Specialized / Elective			
Class Format	Lecture			Credits	: 2			
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd			
Term	First Semester			Classes per Week	前期:4			
Textbook and/or Teaching Materials	演習と応用 線形代数（サイエンス社）/工科の数学 線形代数とベクトル解析（培風館）							
Instructor	Sugino Ryuzaburo							
Course Objectives								
1. 一般次元の部分空間と線形写像を理解し、その基礎的な応用計算ができる。 2. N次元の固有値問題を理解し、その基礎的な応用計算ができる。 3. 一般化固有値問題を理解し、その基礎的な応用計算ができる。								
Rubric								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	一般次元の部分空間と線形写像を理解し、その応用計算ができる。		一般次元の部分空間と線形写像を理解し、その基礎計算ができる。		一般次元の部分空間と線形写像を理解し、その基礎計算ができない。			
評価項目2	N次元の固有値問題を理解し、その応用計算ができる。		N次元の固有値問題を理解し、その基礎計算ができる。		N次元の固有値問題を理解し、その基礎計算ができない。			
評価項目3	一般化固有値問題を理解し、その応用計算ができる。		一般化固有値問題を理解し、その基礎計算ができる。		一般化固有値問題を理解し、その基礎計算ができない。			
Assigned Department Objectives								
Teaching Method								
Outline	高級エンジニアとしてのものづくりに挑むには、線形代数を自在に用いた工学設計が求められる。専攻科一年で学習した一般次元の線形代数論をベースとして線形空間の構造と性質を理解する。さらに、一般次元の固有値問題について学び、線形代数を工学問題に応用するための基礎的な計算法を習得する。							
Style								
Notice	専攻科で学習した数学（線形代数論・解析学）を復習すること。テキストを予習し、集中した授業を成立させること。							
Course Plan								
1st Semester	1st Quarter	1st	部分空間と基底	Goals		空間の次元と正規直交基底を理解し、説明できる。		
		2nd	部分空間と基底			空間の次元と正規直交基底を理解し、その基礎的計算ができる。		
		3rd	部分空間と基底			部分空間と解空間を理解し、説明できる。		
		4th	部分空間と基底			部分空間と解空間を理解し、その基礎的計算ができる。		
		5th	線形写像			基底の変換と表現行列を理解し、説明できる。		
		6th	線形写像			基底の変換と表現行列を理解し、その基礎的計算ができる。		
		7th	線形写像			像と核について理解し、説明できる。		
		8th	線形写像			像と核について理解し、その基礎的計算ができる。		
	2nd Quarter	9th	中間試験					
		10th	固有値と対角化			固有方程式と固有ベクトルを理解し、説明できる。		
		11th	固有値と対角化			固有方程式と固有ベクトルを理解し、その基礎的計算ができる。		
		12th	固有値と対角化			一般化固有値問題を理解し、説明できる。		
		13th	固有値と対角化			一般化固有値問題を理解し、その基礎的計算ができる。		
		14th	固有値とその応用			ジョルダン標準形とその応用を理解し、説明できる。		
		15th	固有値とその応用			2次形式と直交行列を理解し、説明できる。		
		16th	答案返却					
Evaluation Method and Weight (%)								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total	
Subtotal	60	0	0	0	40	0	100	
基礎的能力	30	0	0	0	20	0	50	
専門的能力	20	0	0	0	10	0	30	
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	20	

Anan College		Year	2016		Course Title	信号処理工学	
Course Information							
Course Code	0017			Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd		
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	信号処理入門（オーム社）						
Instructor	Yasuno Emiko						
Course Objectives							
1. アナログ信号とデジタル信号について、基本的事項を理解し、説明できる。 2. 相関関数の定義を理解し、簡単な計算ができる。 3. フーリエ級数展開の基本事項を理解し、基本的な関数のフーリエ級数展開ができる。 4. フーリエ変換の定義を理解し、説明できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	アナログ信号とデジタル信号について説明でき、実際の問題に適用できる。		アナログ信号とデジタル信号について、基本的事項を理解し、説明できる。		アナログ信号とデジタル信号について、説明できない。		
評価項目2	相関関数の定義を理解し、簡単な計算ができ、課題解決に応用できる。		相関関数の定義を理解し、簡単な計算ができる。		相関関数の定義を理解し、簡単な計算ができない。		
評価項目3	フーリエ級数展開を理解し、基本的な関数のフーリエ級数展開ができる。		フーリエ級数展開の基本事項を理解し、基本的な関数のフーリエ級数展開ができる。		フーリエ級数展開の基本事項を理解し、基本的な関数のフーリエ級数展開ができない。		
評価項目4	フーリエ変換の定義を理解し、課題解決に応用できる。		フーリエ変換の定義を理解し、説明できる。		フーリエ変換の定義を説明できない。		
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	自然現象には不規則に変動するものがきわめて多い。本講義では、そこに埋もれている信号の性質を解析したり、抽出処理するための基礎的信号処理技法を修得することを目標とする。						
Style	授業は講義形式で行います。授業を受ける際には、予習と復習をしたうえで授業に臨むと理解が深まります。						
Notice	単に講義を受講するだけでなく、レポート等の演習にも積極的に取り組んでください。						
Course Plan							
1st Semester	1st Quarter	1st	信号処理とは ・信号の種類 ・アナログ信号とデジタル信号 ・サンプリング問題	アナログ信号とデジタル信号について説明できる。			
		2nd	信号処理の例 ・波形の平滑化 ・雑音の圧縮	波形の平滑化、雑音の圧縮について説明できる。			
		3rd	数学の準備体操 ・信号の表現	正規直交基について正しく理解し、計算によって値を求めることができる。			
		4th	・多次元ベクトル空間から関数空間へ	多次元ベクトル空間から関数空間への拡張について理解できる。			
		5th	・正規直交関数系	正規直交関数形について正しく理解し、計算によって値を求めることができる。			
		6th	相関関数 ・正規直交関数系関数の類似性 ・相互相関関数	相互相関関数について正しく理解し、計算によって値を求めることができる。			
		7th	・自己相関関数	自己相関関数について正しく理解し、計算によって値を求めることができる。			
		8th	演習	演習問題を解くことができる。			
	2nd Quarter	9th	中間試験				
		10th	フーリエ級数展開 ・フーリエ級数展開とは	フーリエ級数展開について理解し、与えられた式を展開することができる。			
		11th	・偶関数と奇関数 ・周期が 2π でない場合	偶関数と奇関数について説明できる。			
		12th	・複素フーリエ級数展開を導く	複素フーリエ級数展開を導くことができる。			
		13th	・フーリエ級数展開の実例 ・パーシバルの定理	フーリエ級数展開の実例について理解し、説明と計算ができる。			
		14th	・フーリエ級数展開の重要な性質	フーリエ級数展開の重要な性質について理解し、説明できる。			
		15th	フーリエ変換 ・フーリエ級数展開からフーリエ変換へ ・フーリエ変換の性質	フーリエ変換の性質について理解し、説明できる。			
		16th	答案返却				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	0	0	0	30	0	100

基礎的能力	30	0	0	0	15	0	45
專門的能力	40	0	0	0	15	0	55
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Anan College		Year	2016		Course Title	経営工学
Course Information						
Course Code		0018		Course Category	Specialized / Elective	
Class Format		Lecture		Credits	: 2	
Department		専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade	Adv. 2nd	
Term		Second Semester		Classes per Week	後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials		技術経営論入門、阿部隆夫著、森北出版				
Instructor		Yoshida Susumu				
Course Objectives						
1.技術経営（MOT）について、全体的な考え方を理解し、説明できる。 2.知的財産、企業価値人材についてその評方法を理解し説明できる。 3.研究開発から生産、品質管理にいたる 製づくり活動を解し、説明できる。 4.プロジェクト管理における PDCA サイクルについて理解し、説明できる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		技術経営（MOT）について、考え方を理解し、その重要性を説明できる。		技術経営（MOT）について、全体的な考え方を理解し、説明できる。		技術経営（MOT）について、全体的な考え方を説明できない。
評価項目2		知的財産、企業価値、人材についてその価値評価方法を理解し、価値を高める取り組みを説明できる。		知的財産、企業価値、人材についてその価値評価方法を理解し、説明できる。		知的財産、企業価値、人材についてその価値評価方法を説明できない。
評価項目3		研究開発から生産、品質管理にいたる製品づくり活動を理解し、経営者の立場で重要点を説明できる。		研究開発から生産、品質管理にいたる製品づくり活動を理解し、説明できる。		研究開発から生産、品質管理にいたる製品づくり活動を説明できない。
評価項目4		プロジェクト管理におけるPDCAサイクルについて理解し、リスク低減の為の取り組みを説明できる。		プロジェクト管理におけるPDCAサイクルについて理解し、説明できる。		プロジェクト管理におけるPDCAサイクルについて説明できない。
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline		技術力だけでものをつくっても受け入れられなくなっています。エンジニア一人ひとりに、技術力と合わせて経営的視点が求められています。企業における製品を作るための業務を推進する企業活動について、技術経営の視点から理解する。技術経営（MOT）とは、技術を事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、持続的発展を行うための創造的、かつ戦略的なイノベーションのマネジメントです。まず、技術経営について全体的な考え方を理解し、企業の経営資源である知的財産、企業価値、人材についてその価値評価方法を理解し、価値を高めるための取り組みについて学びます。また、研究開発から生産、品質管理にいたる製品づくり活動について学びます。さらに、リスク管理・プロジェクト管理・業務推進についての手法について学びます。				
Style		教科書の予習を中心とし、予習内容をディスカッションすることで理解を深める授業方法とします。				
Notice		経営者の立場になって、ものごとを考えることができるようになってください。				
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	1.MOT（技術経営）について (1)MOTとは		1-(1)技術経営（MOT）について、全体的な考え方を理解し、説明できる。	
		2nd	(2)MOT的視点の重要性		1-(2)MOT的視点の重要性を説明できる。	
		3rd	(3)テクノロジー		1-(3)経営資源としての技術について説明できる。	
		4th	2.経営資源のマネジメント (1)知的財産のマネジメント		2-(1)知的財産の重要性について理解し、説明できる。	
		5th	(1)知的財産のマネジメント (2)アカウンティングとファイナンス		2-(1)知的財産の重要性について理解し、説明できる。	
		6th	(2)アカウンティングとファイナンス		2-(2)企業の価値の評価方法を理解し、説明できる。	
		7th	(3)ヒューマンリソース		2-(3)人材の評価指標と人材育成の重要性について理解し、説明できる。	
		8th	【中間試験】			
	4th Quarter	9th	3.研究開発・生産・品質管理 (1)R&D		3-(1)研究開発を推進するときの考え方を理解し、説明できる。	
		10th	(2)プロダクツ		3-(2)製品開発のプロセスについて、各プロセスを理解し、説明できる。	
		11th	(3)クオリティマネジメント		3-(3)品質管理の手法と品質管理活動について説明できる。	
		12th	4.マネジメント (1)リスクマネジメント		4-(1)リスクの把握、評価、対応、対応の評価について説明できる。	
		13th	(2)プロジェクトマネジメント		4-(2)プロジェクト管理におけるPDCAサイクルを理解し、説明できる。	
		14th	(3)ビジネスプロセス		4-(3)業務推進の有効性について理解し、説明できる。	
		15th	【期末試験】			
		16th	答案返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	試験	小テスト	レポート・課題	発表	その他	Total
Subtotal	80	0	20	0	0	100

基礎的能力	30	0	0	0	0	30
專門的能力	30	0	10	0	0	40
分野横断的能力	20	0	10	0	0	30

Anan College		Year	2016		Course Title	化学工学基礎 2	
Course Information							
Course Code	0019			Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd		
Term	Second Semester			Classes per Week	後期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	標準化学工学（化学同人）						
Instructor							
Course Objectives							
化学工学プラントにおける分離方法を理解し説明でき、実際の問題に適応できる。 化学工学見地から蒸留について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。 化学工学見地から吸収について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。 化学工学見地から乾燥について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	化学工学プラントにおける分離方法を理解し説明でき、実際の問題に適応できる。		化学工学プラントにおける分離方法を理解できる。		化学工学プラントにおける分離方法を理解できない。		
評価項目2	化学工学見地から蒸留について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。		化学工学見地から蒸留について理解できる。		化学工学見地から蒸留について理解できない。		
評価項目3	化学工学見地から収について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。		化学工学見地から吸収について理解できる。		化学工学見地から吸収について理解できない。		
	化学工学見地から乾燥について理解し説明でき、実際の問題に適応できる。		化学工学見地から乾燥について理解できる。		化学工学見地から乾燥について理解できない。		
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	技術者として必要な化学工学における装置・プラント設計等の基礎的な事項について解説する。化学工学プロセス、反応容器設計、プラント設計の基礎について解説する。						
Style	座学として学習するだけでなく、蒸留、ガス吸収、乾燥については基礎的な実験実習を行い、学習を深めていく。						
Notice	特になし						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	オリエンテーション		この授業の到達目標、講義上の注意、評価方法を理解できる。		
		2nd	1. 分離方法 1		分離方法の原理を理解できる。		
		3rd	分離方法2		分離方法の実験を行い、レポートにまとめることができる。		
		4th	分離方法3		分離方法について理解して説明できる。		
		5th	2. 蒸留 1		蒸留の原理を理解できる。		
		6th	蒸留2		蒸留の実験を行い、レポートにまとめることができる。		
		7th	蒸留 3		蒸留について理解して説明できる。		
		8th	中間テスト		合格点を取る		
	4th Quarter	9th	3. ガス吸収 1		ガス吸収の原理を理解できる。		
		10th	ガス吸収 2		ガス吸収の実験を行い、レポートにまとめることができる。		
		11th	ガス吸収 3		ガス吸収について理解して説明できる。		
		12th	4. 乾燥 1		乾燥の原理を理解できる。		
		13th	乾燥 2		乾燥の実験を行い、レポートにまとめることができる。		
		14th	乾燥 3		乾燥について理解して説明できる。		
		15th	まとめ		これまでの学習内容をまとめることができる。		
		16th	期末テスト		合格点を取る		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	20	0	0	20	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50
専門的能力	10	10	0	0	20	0	40
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10

Anan College		Year	2016		Course Title	応用解析学	
Course Information							
Course Code	0020			Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Lecture			Credits	: 2		
Department	専攻科共通（平成30年度以前入学生）			Student Grade	Adv. 2nd		
Term	First Semester			Classes per Week	前期:2		
Textbook and/or Teaching Materials	演習と応用 微分方程式（サイエンス社）/工科の数学 微分方程式・フーリエ解析（培風館）						
Instructor	Sugino Ryuzaburo						
Course Objectives							
1. 微分積分の応用について理解し、その基礎的な計算ができる。 2. フーリエ変換、ラプラス変換を理解し、その基礎的な計算ができる。 3. 微分方程式の解集合を理解し、その基礎的な計算ができる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	微分積分の応用について理解し、その基礎的な計算ができ、応用できる。		微分積分の応用について理解し、その基礎的な計算ができる。		微分積分の応用について理解し、その基礎的な計算ができない。		
評価項目2	フーリエ変換、ラプラス変換を理解し、その基礎的な計算ができ、応用できる。		フーリエ変換、ラプラス変換を理解し、その基礎的な計算ができる。		フーリエ変換、ラプラス変換を理解し、その基礎的な計算ができない。		
評価項目3	微分方程式の解集合を理解し、その基礎的な計算ができ、応用できる。		微分方程式の解集合を理解し、その基礎的な計算ができる。		微分方程式の解集合を理解し、その基礎的な計算ができない。		
Assigned Department Objectives							
Teaching Method							
Outline	工学におけるものづくりには、微分方程式やフーリエ解析等の応用解析学の知識とスキルが要求される。本講義では、本科と専攻科で学習した微分積分の応用・線形代数をベースに微分方程式の高級解法と関数解析の基礎を理解する。また、フーリエ・ラプラス変換の計算法、常微分方程式と偏微分方程式の求解法を習得する。						
Style							
Notice	専攻科で学習した数学（線形代数論・解析学）を復習すること。テキストを予習し、集中した授業を成立させること。						
Course Plan							
			Theme	Goals			
1st Semester	1st Quarter	1st	微分積分の応用	全微分の性質とその応用について理解し、説明できる。			
		2nd	微分積分の応用	全微分の性質とその応用について理解し、基礎的な計算ができる。			
		3rd	微分積分の応用	陰関数の性質とその応用を理解し、説明できる。			
		4th	微分積分の応用	陰関数の性質とその応用を理解し、基礎的な計算ができる。			
		5th	微分積分の応用	座標変換をとまなう微分積分の応用について理解し、説明できる。			
		6th	微分積分の応用	座標変換をとまなう微分積分の応用について理解し、基礎的な計算ができる。			
		7th	フーリエ解析	広義積分とその応用について理解し、基礎的な計算ができる。			
		8th	フーリエ解析	フーリエ級数とその応用について理解し、基礎的な計算ができる。			
	2nd Quarter	9th	中間試験				
		10th	フーリエ解析	フーリエ変換とその応用について理解し、説明できる。			
		11th	フーリエ解析	ラプラス変換とその応用について理解し、説明できる。			
		12th	常微分方程式の求解	フーリエ解析による常微分方程式の求解を理解し、説明できる。			
		13th	常微分方程式の求解	ラプラス変換による常微分方程式の求解を理解し、基礎的な計算ができる。			
		14th	偏微分方程式の求解	偏微分方程式の解の構成について理解し、説明できる。			
		15th	偏微分方程式の求解	偏微分方程式の解の構成について理解し、基礎的な計算ができる。			
		16th	答案返却				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	20	0	50
専門的能力	20	0	0	0	10	0	30
分野横断的能力	10	0	0	0	10	0	20

Anan College		Year	2016		Course Title	現代物理学
Course Information						
Course Code		0021		Course Category	Specialized / Elective	
Class Format		Lecture		Credits	: 2	
Department		専攻科共通（平成30年度以前入学生）		Student Grade	Adv. 2nd	
Term		Second Semester		Classes per Week	後期:2	
Textbook and/or Teaching Materials		一般相対論入門（日本評論社）				
Instructor		Matsuo Toshihiro				
Course Objectives						
一般相対性理論の基礎を学習し、時空を力学量として扱うための数学的手法を身につける。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		一般相対性原理を説明でき、その表現に必要な数学を扱える		一般相対性原理を説明できる		一般相対性原理を説明できない
評価項目2		重力場の方程式を変分原理で定式化できる		重力場の方程式を説明できる		重力場の方程式を説明できない
評価項目3		シュワルツシルド解によってブラックホールを説明できる		シュワルツシルド解の導出の概略を説明できる		シュワルツシルド解を説明できない
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline		アインシュタインが一般相対性理論を完成させてから100年がたった。当初は宇宙スケールの物理学を対象とする高度に数学的な理論と見なされていたが、科学技術の発展に従って、身近なスケールの物理にも十分関係する理論となった。たとえばGPSは一般相対性理論の効果を考慮に入れなければ使い物にならない。次の技術の発展にどのように寄与するのかかわからないが、現代物理学の基礎として一般相対性理論の素養を身につけた技術者を養成したい。				
Style		授業は教科書に沿って内容を説明する形で進めます。実際の問題に取り組むための演習も行います。				
Notice		十分な自学自習の時間を求めます。				
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	ニュートン力学から特殊相対論へ	ガリレイの相対性原理 ローレンツ変換 ミンコフスキー時空		
		2nd	ニュートン力学から特殊相対論へ	スカラー、ベクトル、テンソル 物理法則の共変形式		
		3rd	一般相対性原理とその数学的表現	一般座標変換 平行移動と共変微分		
		4th	一般相対性原理とその数学的表現	リーマン接続とクリストッフェル記号 曲率テンソル		
		5th	一般相対性原理とその数学的表現	曲率テンソル		
		6th	測地線方程式	重力場のもとでの粒子の運動方程式 ニュートン理論との対応		
		7th	重力場の方程式	マッハの原理 エネルギー運動量テンソル		
		8th	中間試験			
	4th Quarter	9th	重力場の方程式	アインシュタイン方程式 ニュートン理論との対応		
		10th	重力場の方程式	変分原理による定式化 時空の対称性と保存則		
		11th	シュワルツシルド時空	球対称重力場の計量		
		12th	シュワルツシルド時空	シュワルツシルド解の導出		
		13th	シュワルツシルド時空	シュワルツシルドブラックホール		
		14th	相対論的宇宙モデル	ロバートソン＝ウォーカー計量		
		15th	相対論的宇宙モデル	フリードマン方程式		
		16th	期末試験返却			
Evaluation Method and Weight (%)						
	試験		レポート課題		小テスト	Total
Subtotal	50		30		20	100
基礎的能力	20		10		10	40
専門的能力	30		20		10	60
分野横断的能力	0		0		0	0